学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
東京都豊島区目白1丁目5番1号
電話(3986)0221内線2607
発行・編集人　安彦　行人
年間3000円

生命分子科学研究所が完成

竣工式行なわれる
建物内の配置も判明

昨年十月以来建設が進められていた南6号館が完成し、十一月十一日、竣工式が行われた。南6号館に隣接の研究所である生命分子科学研究所が、新しい、研究に携わることになる、竣工式には関係博院長をはじめとする院関係者、また屈川東三学長、飯島孝夫理事長、三浦謙一、所長は生命科学の権威であり、本学理学部の第一期生である三浦謙一、一関、二郎には理実験室や放射性物質の貯蔵室となる。

南6号館は地上五階地下一階建ての建物であり、第一、二階には理実験室や放射性物質の貯蔵室となる。

南6号館は、設計・生産すると各目的に機器を設置する。四階、五階には老化に関する研究を進めていくことになる。

三浦所長は「設備は時点で最高のものを選んだ。放射付基金への寄付と、今後の研究計画について（経済的）ご協力を願いたい」と強調。具体的には、研究所入口にモニターを設置して出入所者をチェックするなどしていく予定であるという。

また三浦所長は生命研の基金への寄付を

'92大学祭ドキュメント

十月三十一日から十一月三日にかけて開催された恒例大学祭は、盛況のうちに閉幕した。三十日は恒例の前夜祭が行われ、十三に近ほどあるとこに百日目を切り、繰り出した、交通規制の中、一車線を生占しているのわり歩きには、祭り、を楽感さる熱気と気がみなぎっていた。大学祭期間中は天候にも恵まれ、出店・講演・研究発表はどこも入りがよく、特に十一月二日と三日の休日には至上を出せた。学内はいつになく賑い各地で、大学祭の成功は、各教加型の大学祭に一人ひとりの取り組みと、大学祭実行委員会の運営のたまものだ。大学祭期間中には、大学祭をさえる実行委員のインフォーメーションカーも数かちこち見られた。

さあ、自白の町へ出陣だ！前夜祭最高の盛り上がりを見せるみこし行列

論説室

大学祭への二つの提言

第一十三回大学祭は、盛況のうちに終わった。参加団体、大学祭実行委員会をはじめ、関係者の努力をたたえたい。

しかし一方で、大学祭がマンネリ化していると言われる。大学祭関係者にとっては、自分達が何のために努力しているのか、祭ばでしないのか実情ではなかろうか。

現在の大学祭が「おもしろいかどうか」については、人それぞれのとえ方がある。しかし参加者が祭ばでしない思いを抱きつけていては、いつの日か大学祭がだきつまるのは明らかだ。

大学祭を有意義なものとするため、関係者が工夫と努力を重ねていることは知っている。その上で、今後の大学祭のために二つの提言をしたい。

ひとつは、周辺住民との関係改善である。自白通りを交通規制の中、延々と練り歩くみこし行列に対し、周辺住民が向けるまなざしは、一般に紹介しているのは「学習院大学にどんなサークルがあるか」であって、「学習院とはどんな学かか」ではない。

現在の大学祭は、周辺住民をはじめとする「外」に対して積極的さ、学部学生をはじめとする「内」との結び付きを断ち切られている。学生自身の価値観や生活環境が多様化し、「学生」が社会的に特別な地位ではなくなった現在、大学祭がそうした「閉じられた世界」でありつづけることもまた必然なのである。

（安彦　行人記者）

科学技術の進歩に思う

十月二十二日、日本電信電話（NTT）が未来のエネルギー問題を解決してくれると期待される常温核融合の実験に成功したと発表した。実験を繰り返しても同じ結果が得られたという。（一〇〇％の再現性が不明）

これが事実であるとすれば、「夢の技術」が実現することになる。核融合とは、原子核同士が融合して新たな一つの原子核になる反応でその際大きなエネルギーが発生する。太陽のエネルギー源も超高温、超高圧のなかで起きている核融合である。常温核融合とは、これを通常温度ではなく、室温で行おうという研究である。

一九八九年に英、米の研究グループが普通の水より重い重水をパラジウムという金属の中に閉じ込めて電気分解すると、簡単に核融合反応が起こると報告し、世界中を驚かせた。しかし、学界からは疑問視されていた。今回のNTTの発表は実験条件に決着をつけるものと期待されている。

この常温核融合がもし実用化できるならば人類は無限のエネルギーを手に入れることができる。このことは、現在私たちがかかえている様々な問題、たとえばエネルギー問題や環境問題などを一気に解決するといわれている。一刻も早く理論が確立されることが望まれている。

しかしこの考えの中には、今しきりに問題になっている「新しい技術が今ある問題をきっと解決してくれるだろう」といった発想があるのではないだろうか、そしてこうした発想が今の私たちに無意識にしみついてしまっていると考える。環境問題でも、大気汚染の原因は化石燃料の燃焼ばかりではなく、現在の生活そのものに問題があるのではないだろうか。

今年の自主制、やはり大学祭実行委員会主催の細川護熙（日本新党代表・参議院議員）講演会である。細川氏の講演会は、十一月三日の午後一時、西四一二〇に於いて開催された。当日のテーマは「理想の教育」ということであったが、実際の内容はテーマとは大きく異なったものだった。細川氏は主に政治について、「規制緩和」、「地方分権」、「官僚政治の問題」、「税制」、「日本政治・社会の構造」、「国際社会の問題」、「教育の問題」などについて語った。そして、それぞれの問題の理想的な在り方について、そこにおける学校の役割についても熱弁をふるった。

質疑応答の際に、一部の質問者の質問時間が長くなり、その質問者の細川氏にたいする「説教」が目立ってしまった。

今年の講演は、やはり大学祭実行委員会主催の細川護熙氏（日本新党代表・参議院議員）講演会が多くの観客を集めたことは、やはり大学祭の自主制、やはり大学祭の自主制、やはり大学祭の自主制

ノーベル賞受賞科学者にきく

十月二十四日に行われた「ノーベル賞受賞講演会」で講演された江崎玲於奈博士、福井謙一博士、利根川進博士に、本紙はそれぞれ母校インタビューを行い、学習院大学やそこに学ぶ学生に望むことを語っていただいた。

問・江崎先生は慶応大学の学生たちに何を望まれますか。

答・いろいろ欲望があって、それが満たされる時には、勉強でもなんでもやっぱりやるんですが、だが学生にいたっては六・十年安定生活に慣いたことは、まだ医ってね、ぼくはインポポだったんだけど、二十代ムめいやっる事に苦労うち、やっぱり何だったら、生かけられる仕事に就

36年振りの優勝

学習院大 SPORTS

第37回甲南戦

ついに連敗ストップ―。昨年の十二月八日のラグビーを皮切りに始まった甲南戦（第三十七回甲南大学対学習院大学運動競技総合定期戦）は、十一月十六日に行われたホッケーで、2対1と学習院大学が勝利を収め、対戦成績は14勝12敗となった。残り種目は十一月二十八日に行われる柔道のみとなり、この時点で学習院大の優勝が決まった。

学習院大の優勝は、昭和三十一年以来2度目である。

第37回甲南戦途中結果

1992年11月16日現在

種目		今年度	昨年度
ラグビー		○	○
ヨット		○	○
アメリカンフットボール		×	×
軟式庭球	(男)	×	×
	(女)	×	×
陸上競技		×	○
バスケットボール		×	△
サッカー		×	×
水泳		×	×
弓道	(男)	○	×
	(女)	○	×
馬術		○	×
硬式野球		×	○
射撃		○	○
硬式庭球	(男)	○	×
	(女)	○	○
剣道		○	○
ゴルフ		○	×
卓球	(男)	×	×
	(女)	○	×
フェンシング		○	○
アーチェリー	(男)	○	×
	(女)	○	○
準硬式野球		○	×
バドミントン	(男)	×	×
	(女)	×	×
ホッケー		○	×
柔道			×

勝ちは○、負けは×引き分けは△
柔道は11月28日に行われる予定

甲南戦は昭和三十一年よりスタートし、今年で三十七回目を迎える。昨年度までの通算成績は学習院大の勝利31分け、優勝からは第一回大会以来逆転されており、引き分けとなった第十七回大会はさんで、現在引連敗中である。

このままでいいのか、いや設けたこの試合は、各部が自分たちの現状を報告し、練習の考察をする、と言葉を高揚した。

また、運動部帯任委員会はこれまでは手探状態だったが、今年の取組はがくなった。

開会式でのエール交換―中央教室にて（提供―卒業生委員会）

馬術部全国大会出場
中村選手個人19位に

中村選手と相模桜弓の華麗なジャンプ―馬事公苑にて

十一月十一日、十二日、東京・世田谷区の馬事公苑で、第四十二回全日本学生馬術選手権大会が行われ、中村盟選手（当三）が19位に入った。

本大会には、全国四十二の大学から十九名の選手が参加した。順位は、初日と二日目の総点の結計で決定される。本学からは、市川聖志選手（法四）と中村選手の二名が出場した。

十一日は午前九時より競技開始。市川選手とトバイアス号は19番目に登場。しかし、第8障害で馬が飛躍を拒否。第9障害に登場。しかし、第9障害で馬が飛躍を拒否。しかし、第8障害で馬が飛躍を拒否。しかし、